

- 今年度のプロジェクトチームメンバーの活動である記念講演・パネルディスカッションの開催を通して、**講師との会議の積み重ねによる企画の検討やメンバー同士の情報共有を丁寧に図る**ことで、プロジェクトチームメンバーの**取組への主体性や今後の取り組みへの意欲**が高まりました。
- 引き続き、大野地区の若者や女性を巻き込み**プロジェクトチームメンバーを増やしていく**とともに、これまでの取組の成果を踏まえた地域課題解決に向けて**具体的な取り組みの検討や実践**につなげていくことが必要です。
- 取組の検討や実践にあたっては、**大野地区内の既存のまちづくり団体の把握や情報共有、ネットワークづくり**についても取り組みながら進めることも重要です。
- 中学生以上全住民アンケート調査では、今後取り組むべき課題として、**①雪かきへの不安への対応、②空き地・空き家対策、③高齢者の生活支援、買物・通院など移動支援、④地域防災力の強化、⑤若者が住みたくなるまちづくり**が重要であることが把握できました。
また、若い世代も大野地区への愛着がある事が明らかになりました。地域ぐるみで課題解決に取り組む様子が見えたり、取り組みに若い世代の意見を反映したり、活躍の場を用意することによって、若者のふるさとへの愛着と誇りが一層育まれていくと考えられます。
- 令和4年度に実施した行政区調査の結果からは、多くの行政区で担い手が不足している実情が明らかとなり、**行政区の枠を越えた地域ぐるみの取組**として、これらの課題に対応する必要があります。

- ◆ 大野地区の担い手である若者や多様な視点を持つ女性を中心としたプロジェクトチームの活動を継続し、地域課題解決に向けた様々な視点からの具体的な取組の検討や実践につなげていくことが重要です。
- ◆ これまでのアンケート調査結果や取組成果を詳細に分析し、地域地区単位での課題の共有を図るとともに、地区特性に応じた地域ぐるみのまちづくりの実践に向けた検討を進めることが大切です。

来年度以降の取組

- 次年度以降は、本業務の成果の周知、共有を図るとともに、これから取り組むべき大野地区のまちづくりの課題や今後のまちづくりの方向性について地域住民と話し合い、まちづくり構想・実施プログラムの策定に向けて、できるところから取り組んでいきます。

若者や女性を中心にプロジェクトチームメンバーを募集しています！
興味のある方は、大野公民館までお問い合わせください！



住民等参加推進の支援、プロジェクトチーム会議の運営支援

開催概要

《目的》

- ①今後の活動の参考となる知見を得ること、②プロジェクトチームメンバーのまちづくり活動の機運を高めること、③中学生以上全住民アンケート調査結果を住民の方に広く周知することを目的に、地域の課題解決に向けた意識の醸成を図るため、大野地区まちづくり推進協議会 50 周年事業と連携し、記念講演・パネルディスカッションを開催しました。

《内容》

- 記念講演では、講師に羽生ちひろ氏を招き、「取材から見たまちづくり～ふるさと大野への思い～」というテーマで、県内の事例を交えた**まちづくりの重要な要素**(つながり・継続・変化)や**今後のまちづくり**(集落や地区を越えて新たな技術を活用した柔軟な“結”のかたち)について講演いただきました。
- パネルディスカッションでは、**大野地区の移住・定住者や大野高校生に登壇**いただき、**大野の強みや弱み、ビジネスや働くことの可能性、自分たちができること**について、それぞれの立場からお話いただきました。



羽生氏の記念講演

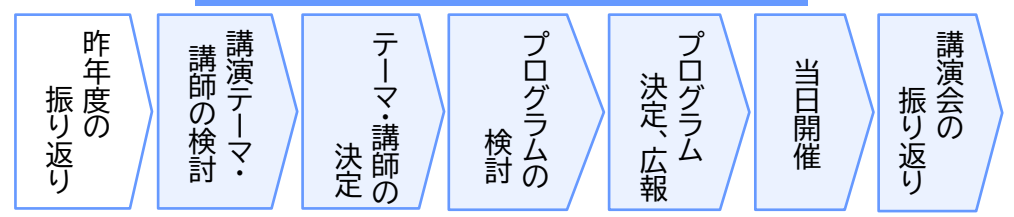


パネルディスカッション

プロジェクトチームの取組

- 記念講演・パネルディスカッションは、**プロジェクトチームメンバーを中心に**会議を重ねながら、記念講演のテーマや講師の選定、講師との打合せによる具体的なプログラムの検討を行い、当日は会場設営や司会進行、中学生以上全住民アンケート調査結果の中間報告など、企画・運営を執りました。

記念講演・パネルディスカッションの検討の流れ



プロジェクトチーム会議



アンケート結果の報告

- 成果としては、会議形式や情報共有の仕方などを工夫し、プロジェクトチームメンバーと丁寧にコミュニケーションを図りながら進めることで、**企画内容にメンバーの意見を反映**することができたとともに、**移住・定住者や大野高校生などの参加につながるなど企画の充実化**が図られたことが挙げられます。また、参加者アンケート結果から、昨年度と比較すると、企画内容の満足度が高まったことも把握することができました。
- 今後の課題としては、プロジェクトチームメンバーとの振り返りにおいて、「寒い時期の開催であったため**開催時期の見直し**が必要」、「**高校生のアイデアを活かしていくべき**」、「大野地区内の**既存の取組を把握し、連携することが必要**」などの意見があったことから、中学生以上全住民アンケート調査結果も踏まえつつ、来年度以降の取組で検討していくことが必要です。

調査概要

《目的》

より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

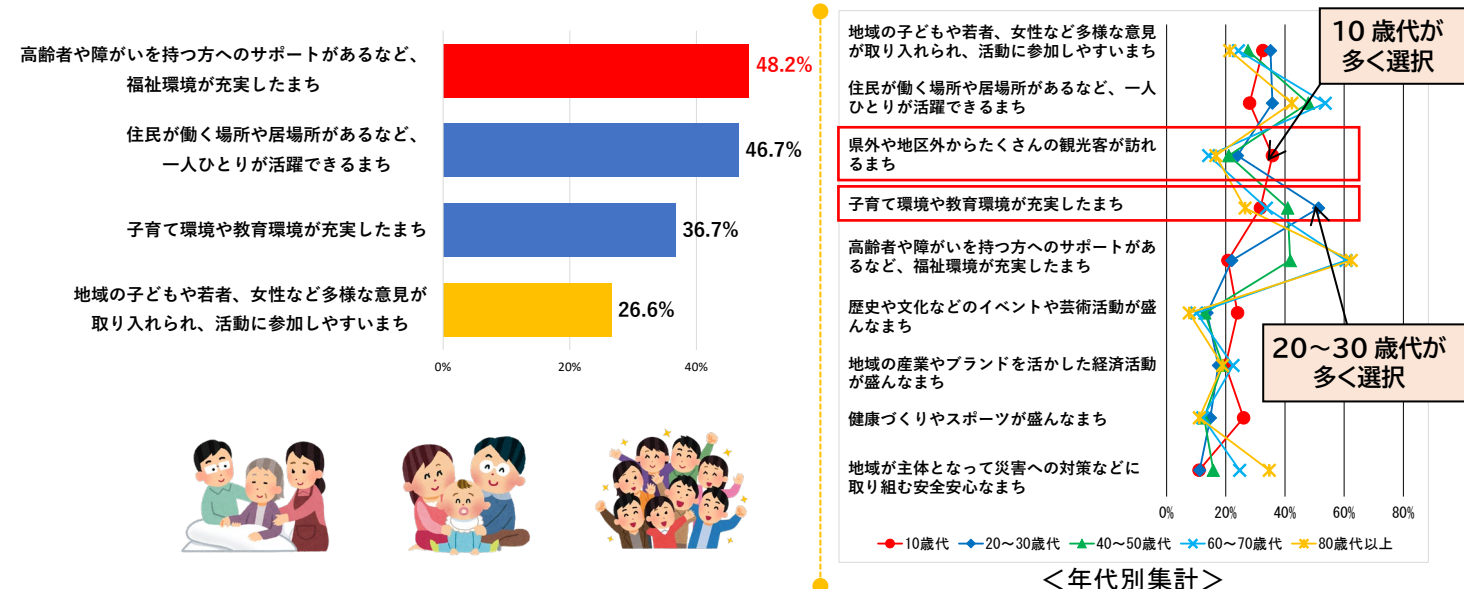
《調査概要》

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収（11,488通）
回収数：4,782人（回収率：41.6%）

調査結果(抜粋)

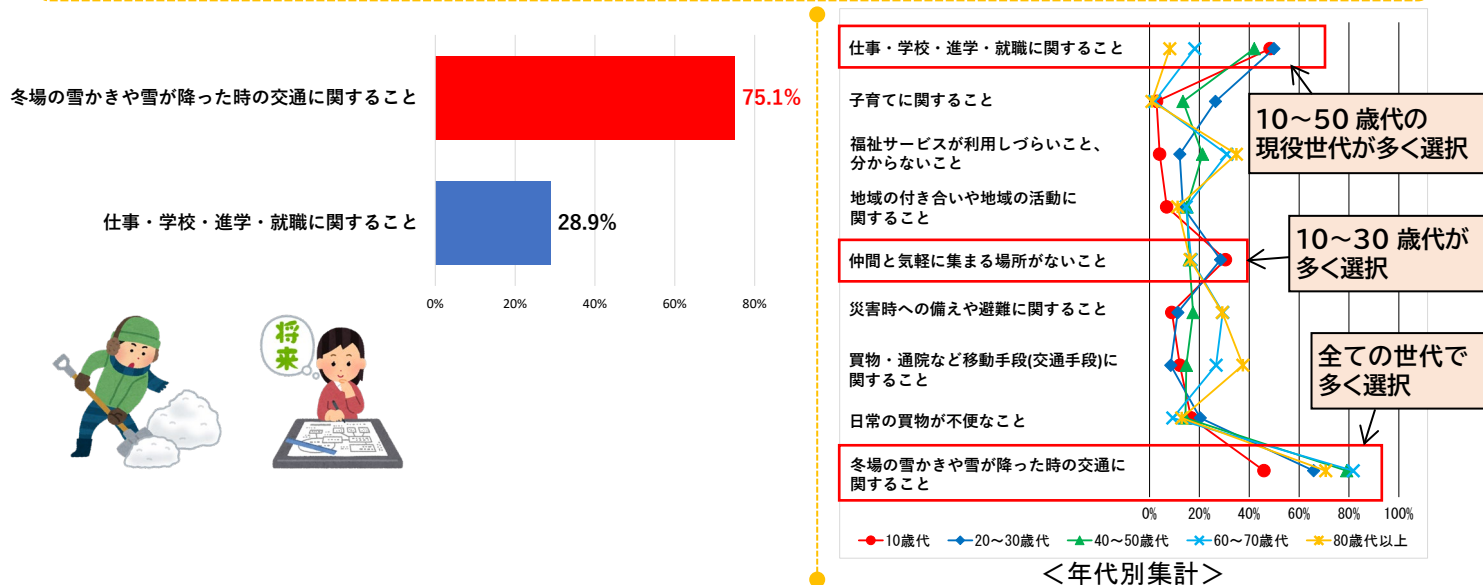
Q. 大野地区の将来像(10～20年後)について

- 福祉環境の充実、一人ひとりが活躍できること、子育てや教育環境の充実の意見が多くなっています。
- 子ども・若者・女性など多様な意見が取り入れられ、活動に参加しやすいまちの回答も一定数ありました。
- 若者世代のうち、10歳代はたくさんの観光客が訪れるまちが、20～30歳代は子育て環境や教育環境の充実の意見が多くなっています。



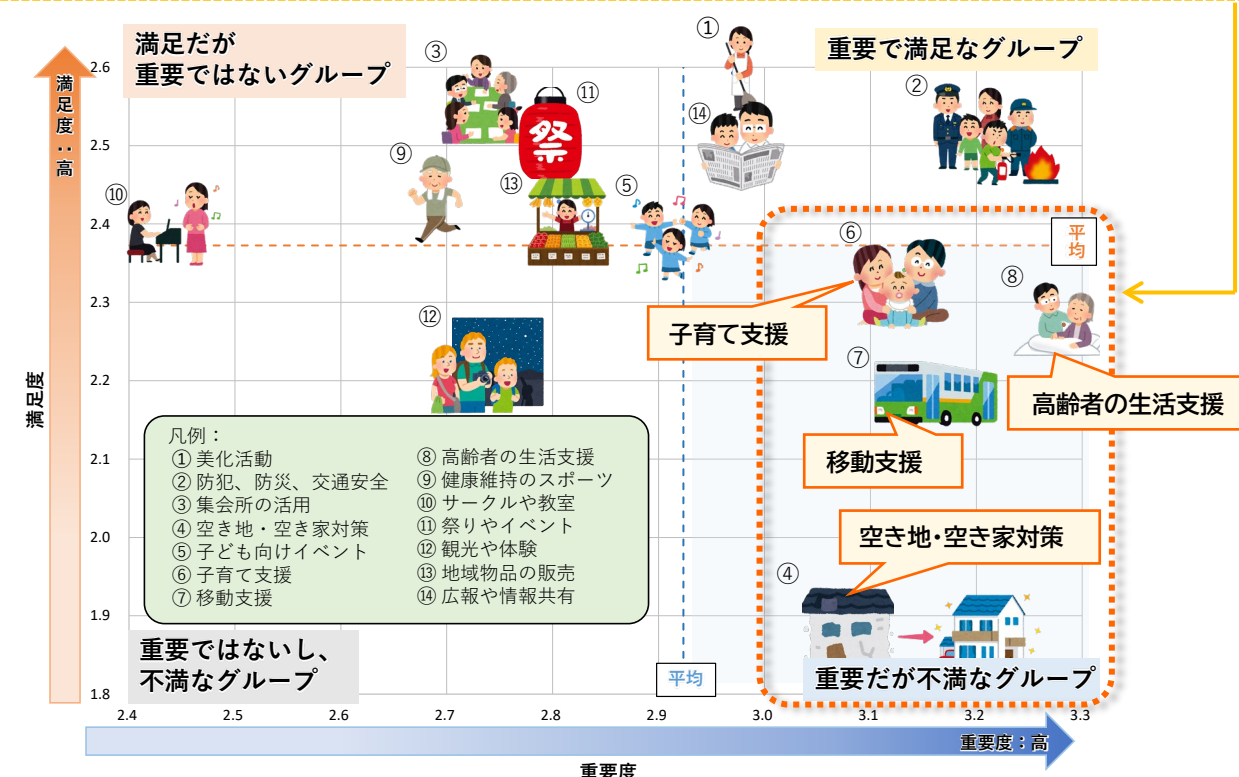
Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

- 全ての世代で雪かきや降雪時の交通など、雪に関する意見が多くなっています。
- 10歳代～50歳代の現役世代は仕事・学校・進学・就職に関する回答が多くなっています。
- 若者世代のうち、10歳代～30歳代は、仲間と気軽に集まる場所がないという回答も多くなっています。



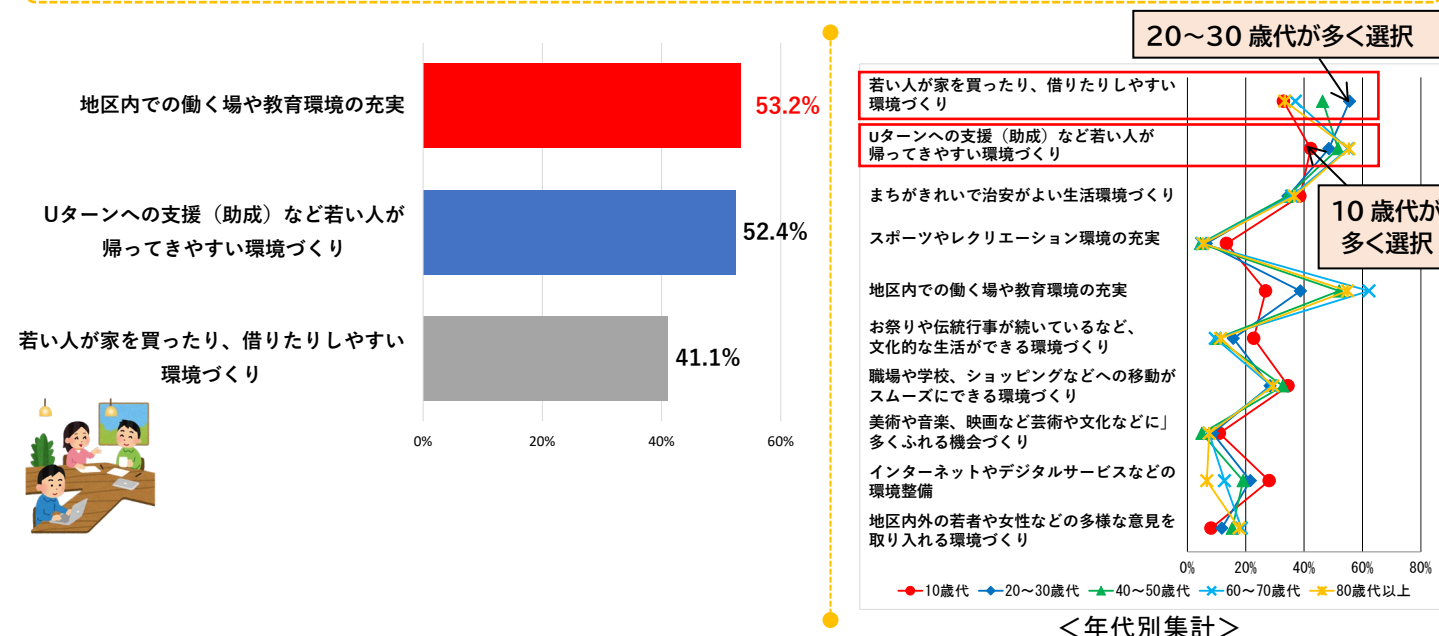
Q. 大野地区内の活動に対する満足度や重要度について

- 重要度は高いにも関わらず満足度が低い活動は、空き地・空き家対策、移動支援、高齢者の生活支援、子育て支援となっています。



Q. あなたや若者が10年後も住み続けるために必要なことについて

- 大野地区内での働く場や教育環境の充実、若い人が帰ってきやすい環境づくりの回答が多くなっています。
- 若者のうち、10歳代は若い人が帰ってきやすい環境づくり、20歳代～30歳代は若い人が家を取得しやすい環境づくりが多くなっています。



Q. 大野地区への愛着、住みやすさ、居住意向について

- 回答者の多くが大野地区への愛着や住みやすさを感じ、今後も住み続けたいと考えており、年齢や地区別でも大きな違いは見られませんが、できれば他の地域に移りたいと考えているのは10歳代が最も多くなっています。